

春さきの朝のこと

小川未明

青空文庫

外そとは寒さむいけれど、いいお天てん気きでした。なんといつても、もうじき、花はなが咲さくのです。私わたしは、遊あそびにいこうと思おもつて、門もんから往おう来らいへ出でました。すると、あちらにせいの高たかい男おとこのひとが立たつています。いま時じ分ぶん、戦せん闘とう帽ぼうをかぶり、ゲートルをしているので、おかしく思おもいました。

「さて、この人ひとは、復ふく員いんしたばかりでないのか。そして、たずねる家いえがわからぬのでさ
がしているのではないか。」

こう、考かんえなかんおすと、私わたしは、しばらく、そのようすを見みまもったのでした。どうやら、
この人ひとは、頭あたまの上うへのさくらをながめているのです。

「ああ、ぶじに帰かえつて、母ぼ国こくの花はなを見みるのが、なつかしいのだろう。」

こう思おもうと、私わたしは、その人ひとの気き持もちに同どう情じょうして、そばへ、いきたくまりました。私わたしはついで、近ちかづいて、いっしょに立たちながら、枝えだを見みあげました。いつのまにかつぼみは、
びつくりするほど、大おほきくなっていました。下したを通とおつても、気きがつかなくつたなあと、思おもっている。

「つぼみのさきが赤あかくなりましたね。」と、ふいに、おじさんが、私わたしに、話はなしかけました。

「なんだか、私は、うちとけた気分になれて、

「おじさんは、いまごろ復員なされたの。」と、聞きました。

「そう、けさ、ついたばかりさ。しかし、花をこうして、二度見られるとは思わなかったよ。」

「おじさんは、私を見て、ほほえみました。」

「きみ、学校は何年生になったの。」

「五年生。」

「そうかい、ほんとうに、子どもだけは、いいな。」と、おじさんは、いいました。

「どうして、子どもだけがいいの。」と、私は、聞きかえしました。

「きみ、ちつと、ここへかけない。」と、おじさんは、かきねの外がわの、切り石の上へ、

自分がさきに腰をおろしました。けれど、私は、その前に立って、おじさんの顔を見ていました。

「子どもを、すきなわけを話そうかね。それは、どこへいっても、子どもは、しょうじきで純真だからさ。こちらへ、帰ってみて、おどろいたのは、だれにあつても、こせこせして、顔にやさしみというものがない。戦争前までは、あれほど、礼儀正しかったの

がと、なにかにつけ、昔むかしが思いだされてなさげなくなる。戦争せんそうは、形かたちのあるものを焼やいたりこわしたり、したばかりでなく、人間にんげんの心こころの中なかまですさまじくしたのだ。いま、ここに立たっているちよつとのあいだも、いやなことばかりだよ。」と、おじさんがいいました。

私わたしは、いまと聞いて、どんないやなことが、あつたのか、知りたかったので、

「どんなこと。」と、おじさんに、聞ききました。きつと、おじさんは、教おしえてくれるだろうと思おもつたから。

「このごろは、あきすや、どろぼうが、横おうこう行こうするといふから、むりもないが、ここを通とおるものが、みんな私わたしの顔かおをつめたい目めつきで見みていく。そうかと思おもうと、まだ働はたらきざかりのわかものが、きよろきよろした目めつきで、道みちに落おちたものをさがしながら、わき見みもせずつきあたりそうにしていった。あれが、ひろい屋やとかいうんだね。まったく、なさげなくなつたよ。もし、きみがやってこなければ、さびしかつたよ。きみは、ぼくの心こころがわかつたように、いっしょに、花はなをながめてくれた。これで、やつと、すくわれたというものさ。」

私わたしは、こゝろ聞きくと、きのどくに思おもいました。やつと、遠えんぼう方ほうから帰かえつてきて、同どうじょう情じょう

するものがなかつたら、力ちからのおとしようは、どんなかと思おもうからでした。

このとき、おじさんは、たばこを出だして、マッチをすりました。その青あおい煙けむりが、毎夜まいよの霜しもにやけて、赤あかくなつた、さつきさつきの木きをかすめて、ゆるくながれました。

「おじさんのおうちは、どこななの。」と、私わたしは、それを知しりたかつたのです。

「こちらで、戦争せんそうにいくまで、働はたらいていた工場こうじょうは、どうなつたかと、すぐ見みにいつたのだが、あたりは、まったく焼やけ野原のほらになつていた。しかたがない、これから、いなかへ帰かえるよ。」

「おじさんのいなかは、どこななの。」

「ずっと北きたの寒さむい国くにだ。まだ、雪ゆきがあつて、花はなどころではないだろう。それからみれば、きみたちは、あたたかなところに生うまれてしあわせなものさ。学がっこう校がっこうから帰かえるとどんなことをして遊あそぶの。」と、おじさんが聞ききました。

「ぼくたち、こまをまわしたり、ボールを投なげて遊あそぶよ。」と、私わたしは、答こたえました。

「そうかい。どこの子こどももおんなじだね。ぼくなども、夕ゆう焼やけのした、春はるの晩ばんがた、お寺てらの鐘かねのなるころまで、よく、かくれんぼうをして遊あそんだものだ。そして、おそく帰かえつて、しかられた。あんなおもしろかつたことは、もう大おおきくなつてからない。きみも、よく勉べ

強^{んぎょう}をして、よく、お遊^{あそ}び。」

私^{わたし}は、いいおじさんだなあと、思^{おも}いました。おじさんは、思^{おも}いだしたように、

「さくらの花^{はな}ざかりもきれいだが、すももの花^{はな}ざかりも、きれいなものだよ。」と、その景色^{けしき}を目^めにかかべるように、しみじみとしたちようしで、いいました。

私^{わたし}は、まだよくすももの花^{はな}を知らないので、想^{そうぞう}像^{ぞう}がつきませんでした、

「白^{しろ}い花^{はな}。」と、聞^ききました。

「まっ白^{しろ}で雪^{ゆき}のような花^{はな}さ。それが満^{まん}開^{かい}の時^{じぶん}分^{ぶん}はちようど、一^{せん}村^{そん}が銀^{ぎん}世^せ界^{かい}となる。中^ち国^{こく}のいなかには、すももばかりの村^{むら}があるよ。すももの木^きに馬^{うま}をつないで、休^{やす}んだと
きのことだ、村^{むら}の子^こどもがおおせいそばへよつてきて、はじめは、えんりよして、だまっ
て見^みていたが、すこしなかよしになると、馬^{うま}に乗^のせてくれといつてきかない。そのようす
が、あまりむじやきで、かわいいので、ついで一人^{ひとり}乗^のせてやると、こんどはおれの番^{ばん}だ、お
れにもといつて、つぎつぎに前^{まえ}へ出^でる。しかたがないから、公^{こう}平^{へい}に、かわるがわる、乗^の
せてやると、なかには馬^{うま}をひいて歩^{ある}かせてくれというのもある。子^こどもは、しようじきだ、
思^{おも}ったとおりいふのだな。ただ一人^{ひとり}、どうしても、馬^{うま}に乗^のらない子^こがあつた。乗^のせてやる
といつても、あとずさりする。どこにもこつちう気^きの弱^{よわ}い子^こがいるものだ。その子^こは、い

ちばんかわいらしい女の子みたいな、顔をしていた。国はちがっても、人情や、子どもの遊びに、ちっともかわりはない。たとえ、おとなどうしが、けんかをして、子どもどうしは、関係なく、いつだってお友だちになれるよ。」と、おじさんは、心が明るくなったような、話をしてくれました。

こう聞くと、私は、なぜおとなどうしは、たがいに、りくつをいわなければならぬのだらうと、ふしぎな気がしました。

「世界じゆうの子どもが、もう戦争はしたくないと、お友だちになればいいんだね。」
私は、波のかがやく、遠い海のある、美しい花の咲く国を思いました。

「ああ、そうだとも、そうだとも。そうすれば、きみたちの時代には、いやな戦争というものがなくなるのだ。」

おじさんは、戦場のことでも思ったのか、ちよつときびしい顔をして、ためいきをしました。それから、立ちあがりました。

「きみは、からだに気をつけて、よく勉強をして、いい子になっておくれ。」と、おじさんは、いいました。

「おじさん、もういくの。」と、私は、なんだか、別れるのが、かなしくなりました。

「これから停車場ていしやじょうにいつて、汽車きしやに乗のるのだよ。こちらへきたら、また、あえるかもしれない。」

おじさんは、ちよつと、私わたしに、会え釈しゃくして、あちらへ去さりかけました。私わたしが、ていねいに頭あたまをさげて、いつまでも、うしろすがたを見送みおくりました。

「ああ、またあえるというが、それは、いつのことだろう。」

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 14」講談社

1977（昭和52）年12月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「みどり色の時計」新子供社

1950（昭和25）年4月

初出：「小学五年生」

1949（昭和24）年4月

※表題は底本では、「春《はる》さきの朝《あさ》のこと」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2017年3月11日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

春さきの朝のこと

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>